



11 2023

発行所 大阪府中央区玉造2-24-22 カトリック大阪大司教区 広報委員会 郵便番号 540-0004 TEL (06) 6941-9700 (代表) TEL (06) 6946-3223 (直通) FAX (06) 6946-3224 (直通) E-mail: jiho@osaka.catholic.jp 編集 広報委員会 発行人 前田万葉

本紙「点訳版」「音訳」があります。〈無料〉 ※ご希望の場合は下記まで申込み 「点訳版(点字本)」 時報 ☎06-6946-3223(直通) ☎06-6946-3224(直通) 「音訳(テープ・デジ)」 山口さん ☎0798-34-4228

- ☆ 司牧者から若者たちにこの一冊
  - ☆ ラジオ「信仰の時間」エリック神父
  - ☆ 使徒職感委員会「セラフ・ベイヤ」司教講演会
  - ☆ 元和の大殉教って何? ―後編―
  - ☆ 平和旬間報告(続き)
  - ☆ 聞かせてください、神様と出会った時のこと
  - ☆ カラキズムの学び
  - ☆ 「生きる」難民移住移動者
- 5面

『時報』原稿・資料等の締切は前々月末です。



# 病者・障がい者とともに歩むミサ

9月23日(土・祝)、14時から大阪カトリック大聖堂で「病者・障がい者とともに歩むミサ」が前田万葉大司教と酒井俊弘補佐司教の司式でささげられた。4年ぶりの公開ミサと同時に、さまざまな事情で現地参加できない人のために、YouTubeの同時収録配信となった。

第31回世界病者の日のテーマは「この人を介抱してください」(ルカ10・35)。前田万葉大司教はミサ説教の中で、当日読まれた福音書(ヨハネ9・1〜3)の「生まれつき目の見えない人」の箇所について、次のように話された。

「病者・障がい者にも希望と勇気を与えておられます。病人や障がい者、その家族たちにもそれぞれ神の業が現れるのです。イエス・キリストは、ご自身が弱者となつて人間の苦しみを経験し、ご自身も御父のなぐさめを受けました。誰でも病気になる、障がい者にならうるのです。また、キリストの安らぎと慰めを受けたなら、今度はわたしたちが、主に倣つて柔和で謙遜な姿勢で、兄弟姉妹の安らぎと慰めにならないければなりません。

また、教皇フランシスコは、シノドスの精神にかなう、いやしの実践として、あわれみの心を次のように説いています」と紹介した。

『病は、人間である以上わたしたちの経験の一角を占めるものです。しかし、ケアやあわれみがなく、隔離され放置されたままであるならば、それは非人間的なものとなるでしょう。



病者・障がい者・ボーイスカウトも参列した「ともに歩むミサ」

## 東京大司教区に補佐司教任命 アンドレア・レンボ神父



教皇フランシスコは、本日9月16日19時(ローマ時間正午)、東京教区補佐司教にアンドレア・レンボ(Andrea Lembo)神父を任命された。

2018年6月23日に幸田和生補佐司教(当時)の引退が受理されて以降、5年間不在であった東京教区に待ちに待った補佐司教が誕生した。

一緒に歩んでいけば、体調を崩したり、疲れや想定外のことなどで途中で動けなくなったりする人がいるのは当たり前のことです。そういうときにこそ、わたしたちは自分の歩みを確認できます。つまり、本当に一緒に歩んでいるのか、それとも同じ道にはいても、それぞれ、自己の利益を優先し、わが道を行っていないかという事です。ですから、皆さんによく考えてみてほしいのは、まさに虚弱さや

## 新しいミサ式文

# 言葉の意味は?

動画QRコード



本紙6月号で、26小教区のアンケート結果をもとに、新しいミサ式文の導入状況について報じた。その中で、式文に新しく導入されていくつかの言葉への違和感が表明された。今回は続報として、言葉について教区典礼委員会の協力を得て、解説したいと思う。

①「またあなたとともに」  
従来の「司祭」は「祭儀をつかさどる者」の意味で採用されたが、司教や助祭に対して応答するには違和感があると指摘され、再検討された。ラテン語規範版を直訳すると「あなたの霊とともに」になるが、「あなた」ではなく、「奉仕」「職」の尊厳に向けられたものである。ミサに集まった会衆の中にイエスがともにいてくださることを思い起こすため、司式者は会衆に「主は皆さんとともに」と呼びかける。それに対して会衆は、「司式者(奉仕職)にも同じイエスが働いている」との想いを込めて「またあなたとともに」と応える。このように対話句は「ともに集まった教会の神秘」を表している。

②「あわれみ」から「いつくしみ」に  
新しいミサ式文の基調は、文語体ではなく口語体の日本語にすることが決定された。その方針に従って、文語体であった四つのミサ賛歌も口語に改められた。特に「あわれみの賛歌」が「いつくしみの賛歌」に変わり、文言も「主よ、いつくしみを」などに変わった。同時に「栄光の賛歌」と「平和の賛歌」にも「いつくしみ」が採用された。ギリシャ語「キリエ、エレイソン」はさまざまな意味をあわせ持つ言葉なので、日本語に翻訳するには困難がともなう。例えば、神への嘆願と神への賛美の両方の意味を備えている。今回の改訂では、「あわれみ」から「いつくしみ」に変更したというより、「キリエ」の「いつくしみに満ちた主をほめたたえる」という賛美としての側面に光を当てるために、「いつくしみ」を採用し導入したということになる。

③「主よ、わたしはあなたをお迎えするにふさわしい者ではありません。おこぼをいただくだけで救われます」。  
意味により「あわれみ」が残っている式文もある。

世界を代表するローマの百人隊長がイエスへの信仰告白を行ったことは、キリストの教会がユダヤ教を飛び出して異邦人(世界)に向けて開かれてゆくことを象徴しているように思える。イエスの体(パン)は、世界を救うまことの命の糧なのだ。ヨハネ福音書6章68節〜69節からとられたペトロの信仰告白を適応した日本固有の信仰告白も認められ、選択できるようにしている。

※新しい式文については、日本カトリック典礼委員会編「感謝の祭儀を祝うー新しい『ミサの式次第』解説」(カトリック中央協議会)に詳しい。興味のある方は、是非参考にしていただきたい。

(文) 広報委員会 委員長 川野裕明 典礼委員会 協力)

## 教区納骨者および死者 祈念ミサ

11月3日(金・祝)11時

司式:酒井俊弘補佐司教

大阪高松カテドラル 聖マリア大聖堂





司牧者がリレー形式で若者たちにぜひ読んでほしい書籍を紹介し、青年たちの読書感想文を掲載する連載。今回は、Sr石川治美(はるみ) (大阪聖ヨゼフ宣教修道女会)が担当。

Sr石川治美からの一冊



『なぜ私だけが苦しむのか 現代のヨブ記』(H.S.クシュナー著、斎藤武訳、岩波現代文庫、2008年、税込1342円)

大学生だった時に、ある講義のテキストとして読んで本です。

皆さんは旧約聖書の「ヨブ記」をお読みになったことがあるでしょうか。主人公のヨブは裕福で家庭的にも恵まれ、信仰深く、幸せな人生を送っていました。ところがあるとき突然財産を失い、子どもたちに先立たれ、自分自身は重い皮膚病にかかって苦しみます。信仰深く人柄の良いヨブが、どうしてこんな辛い思

いをしなければならぬのでしょうか。

この本の著者、ハロルド・サムエル・クシュナーはユダヤ教のラビ(教師)ですが、最愛の息子が難病にかかり、長くは生きられないという苦しみで直面しました。そしてヨブのように葛藤します。「何故、何の罪も無い幼い息子が、このように苦しまねばならないのか」と。

程度の差こそあれ、私たちの周りにも病氣、事故、災害、貧困、家庭や人間関係の問題など、さまざまな苦しみが存在します。私自身、身に覚えがあることですが、苦しみの中で多くの人が「どうして私がこんな目に……?」「これは何の罰なのだろうか」と原因究明をして自分を責めたり、神様を恨んだりします。

クシュナーは宗教者であるがゆえに、ヨブと自分自身、さらに周囲の人びとの苦しみを通して、なぜ神はさまざまな苦しみをお許しになるのか、私たちは苦しみはどう対応したら良いのかと考察してゆきます。私も含め、信仰を持つ多くの



人が「全ての出来事は神の意志である」と考えますが、クシュナーの考察はそのような思い込みを砕きます。彼は「神にも介入できない部分がある」「神が苦しみを与えるのではない」と語り、苦しみの中でどのように祈り、対応すべきなのか、本物の奇跡とはどういったものなのか、極めて理に叶った考察を展開し、やがて「苦しむ人に寄り添う神」、「人びとの痛みに共感する神」の姿が浮き彫りになります。

読み進めるうちにあらためて「愛である神」を見出し、心温まる思いでした。この本はアメリカでベストセラーになり、十か国語に翻訳されたそうです。文章も平易で読みやすいので是非一読を。

次回は、山口武史神父様(團田教会)です。

若者の読書感想文募集

- ① 年齢は35歳まで。カトリック信者、もしくはカトリック教会と何らかの関係がある方(カトリック校や諸施設の在籍者又は卒業生、保護者、関係者など)。
- ② 感想は400字程度。氏名、所属、顔写真(自由)を添えてメール(jiho@osaka.catholic.jp)か郵便にて送付(掲載にあたり編集する場合あり)。
- ③ 感想を送ってくださった方全員に教区オリジナルしおり(4枚組)を進呈。たくさんのご投稿をお待ちしています。



ラジオ 信仰の時間

兄弟的忠告

エリック・バウチスタ・デ・グスマン神父 (大阪北地区・梅田ブロック司牧チーム、9月10日放送分)

マタイによる福音 18章 15節～20節

(そのとき、イエスは弟子たちに言われた)。「兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで忠告しなさい。言うことを聞き入れたら、兄弟を得たことになる。聞き入れなければ、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。すべてのことが、二人または三人の証人の口によって確定されるようになるためである。それでも聞き入れなければ、教会に申し出なさい。教会の言うことも聞き入れないなら、その人を異邦人か徴税人と同様に見なさい。はっきり言うておく。あなたがたが地上でつなぐことは、天上でもつなぐが、あなたがたが地上で解くことは、天上でも解かれる。また、はっきり言うておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心をつなげて求めらば、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」。

わたしたちの教会共同体には多くの人びとがいます。育ってきた環境も、考え方も、文化も、言語もそれぞれ異なります。何らかの形で、共同体の一員の間で誤解や対立が生じることがあります。このような場合、主イエスはこの問題を共同体内での解決について、

福音的な方法を示しておられます。

まず、主イエスはわたしたちに一对一で話し合うことを勧めています。自分の言い分をよく聞き、説明します。わたしたちはまた、兄弟姉妹に耳を傾け、理解する心を貸すよう求められています。和解に至れば、わたしたちはその兄弟姉妹を再び共同体の一員として得ることができます。そうでなければ、心の通い合う一对一の話し合いがうまくいかない場合、主イエスは、第二のステップとして、わたしたちがその兄弟姉妹と再び話し合おうとするときに、交わされた言葉を証明するために、一人か二人の証人を連れてくるように指示しています。第三のステップは、問題を教会に知らせることです。司祭や、共同体の問題を扱うのに賢明で信頼できる人の助けを求めても良いです。これが成功すれば、共同体の中に兄弟姉妹が留まることになり、問題も解決されます。この最後のステップが失敗した場合、主イエスは、罪を犯した兄弟姉妹を異邦人や徴税人と同じように扱うこと、いわゆる、この兄弟姉妹はもはや教会共同体の一員ではないように見なすことを勧めています。福音の時代には、異邦人や徴税人などが罪深い人として見なされていました。

主イエスはこの方法を、誤解や対立などがあっても、兄弟姉妹を愛し続けるために兄弟的忠告の仕方をわたしたちに教えています。どのような対立が生じようとも、わたしたちはできる限り、教会共同体の一員を一人も失わないようにしておきたいものです。

しかし現実には、主イエスから教えられたこの解決策に頼らない人が多いです。時には、対立した兄弟姉妹と向き合う勇気がないこともあります。多くの人は直接その兄弟姉妹と話し合うより、第三者に助言を求めて来ます。この場合、第三者は話のただ一つのバー

ジョンを聞き、そのバージョンにのみ基づいた助言をすることになります。たいていの場合、3人の異なる意見が存在し、3つの異なるバージョンあるかもしれないので、対立と誤解がさらにひどくなってしまいます。また、罪を犯した兄弟姉妹は、自分に対して二人の人物が一緒に動いていることに脅威を感じるかもしれません。一对一で話し合うという主イエスのアドバイスに従いさえすれば、多くの問題は最初の段階で簡単に和解できたでしょう。

主イエスの兄弟的忠告は、社会がわたしたちに指示するものとは一致していないかもしれませんが、わたしたちを導いてくださるのは主イエスなのだから、道と真理ののちは確実にわたしたちのそばにあるでしょう。

毎週日曜日 5:50～6:00AM 放送  
11月担当: Sr 戸村晴美  
ABC ラジオ (朝日放送) AM1008/FM93.3  
スマホアプリの radiko でも聴けます。

大阪のカトリック病院  
**ガラシア病院**

特徴的な医療  
ホスピス・糖尿病内科  
リハビリ・神経内科  
肝臓内科・循環器内科

医療法人ガラシア会  
理事長 前田万葉 大司教  
チャプレン 松本信愛 神父

看護師 募集中

〒562-8567 箕面市粟生間谷西 6-14-1  
☎ 072-729-2345  
医療法人ガラシア会





# シノドス 共に歩むために

## 〜賜物を活かして合う共同体

9月30日(土)午後、サクラファミリア聖堂でヨゼフ・アベイヤ福岡教区司教を迎え、使徒職養成委員会主催の講演会が開かれ、110人余りの信徒、修道者、司祭が集った。開会に先立ち酒井俊弘補佐司教のメッセージが代読され、シノドスが司教たちだけの会議ではなく、信徒全員が関わるものであることが強調され、全員で「シノドスのための祈り」をささげ、講演が始まった。

アベイヤ司教はまず、「教霊に支えられて、御父が示す目的地向かって歩む「神の民」であり、一人ひとりが神に招かれた同じ旅人である。「ともに歩む」とをしっかりと意識しないと「シノダリティ」は単なる方法論に陥ってしまうと警告された。

続いてシノドス開会式(2021.10)での自身の体験を交えて、多くの人がととの出会いを大切に、人びとの心からの叫びを聞き、耳を傾けること、識別することの大切さを述べられた。そして教皇様が示された良い識別のために避けるべき誘惑(形式主義、未知主義、固定主義)を紹介し、現代において天の父がわたしたちに何を求めておられるかを見極めていくことが、シノドスの大事な目的の一つと述べられた。

また自身も体験された、NICE(第1回福音宣教推進全国会議)の歩み、生涯養成委員会の歩みをもとに「ともに歩む」ために欠かせないこととして「祈



熱く語られるアベイヤ司教

に輝く」キリストのただ一つの光が放つ幾条もの光線に似ている」との言葉を引用し、信徒、聖職者、奉獻者の使命を説明し、信徒の使命は特に家庭と社会において果たされ、共同体に対する奉仕も必要だが教会内のことに力を注ぎすぎると述べられた。

その上で、現実の中で信仰を振り返り教会の在り方を見直すこと、キリストに耳を傾ける共同体に必要なリーダーシップを模索すること、識別の基準を「福音」に置くこと、教会として与えられた使命の再認識をすることを目指すよう勧められた。

最後にヨハネ13章の足洗いの場面を引用し、教会は一人ひとりの前に、人類の前にひざまずいて足を洗うよう招かれていると締めくくられた。

(文 使徒職養成委員会 平尾亨二)

### 後編

## 元和の大殉教って何？

本紙10月号5面(前編)の続きより。

Q. そもそも江戸幕府はなぜキリシタンを弾圧したのか？

A. 天下統一を実現した家康は当初、通商貿易のためにキリスト教布教を黙認していた。しかし、幕藩封建体制を確立する過程で、キリシタンが関わるいくつかの事件が重なり、禁教へと舵を切るようになった。

慶長15(1610)年、キリシタン大名有馬晴信が、マカオで家臣を殺された事の報復に、ポルトガル船ノッサ・セニョーラ・デ・デウス号を攻撃した。この事件の結果、ポルトガル船が2年間来航しなかった。そのころ、オランダ商船が初来着し、宣教師を介さない貿易への幕府の期待が生まれた。

慶長17(1612)年には、岡本大八事件が起こった。キリシタンであった岡本大八は、主君の幕臣・本田正純を通してキリシタンに便宜を与えてきた。この岡本大八と有馬晴信との間に、所領問題による贈収賄

事件が起こった。幕藩封建体制の根幹である所領問題で、このような行為が行われたこと、その当事者が2人ともにキリシタンであったことから、徳川家康は禁教令施行を決意した。岡本大八は火刑に処され、有馬晴信は甲斐に流され、死刑になった。

禁教令発令を決意した家康は、天領(直轄地)から始めて禁教の範囲を広げていった。またこのころ、徳川幕府の幕藩体制固めは大詰めを迎えていた。反対勢力である豊臣氏打倒が急務であったが、ジョアン明石掃部をはじめ多くのキリシタン武士が好意的な豊臣秀頼の大坂方に付いていた。そこで、キリシタン勢力が結集しないように、高山右近一族や宣教師を国外追放した。

元和2(1616)年、家康は死去した。跡を継いだ秀忠に政治権力が集中するようになった。秀忠は「伴天連宗門御禁奉書」を発して、キリシタン禁制をさらに強化していった。

幕府の意向を受けた諸藩も一斉に厳しい取り調べを開始した。これは、伴天連・キリシタンの根絶が、当時の支配層共通の目標になったことを意味する。さらに、禁教政策こそが、江戸時代を通じて幕府と諸藩を結びつけ、二百年余りに及ぶ幕藩体制を維持する原動力になったのである。

Q. 日本のカトリック教会は元和の大殉教40年をどのように祝おうとしているのか？

A. 2019年に来日した教皇フランシスコは、日本司教団へのメッセージ



26聖人 殉教の場：西坂の丘(長崎市西坂)

で「死に至るまで信仰をあかした聖パウロ三木などの殉教者、何世代にもわたって信仰を守り続けた長崎の潜伏キリシタンを、私は思い浮かべています。日本の共同体のDNAには、殉教者のあかしが刻まれています。それは、どんな絶望にも効く特効薬であって、私たちに歩むべき道を示してくれれます。希望に燃えた種まき、殉教者のあかし、時が来れば神が与えてくださる実りを待つ忍耐が、日本の宣教の特徴であり、それは日本の文化と共存しています」と述べた。

禁教体制が確立する中で、慶長19(1614)年11月に宣教師の大多数は国外に追放された。宣教師の布教活動に伝道士や説教師として協力・補助していた「同宿」と呼ばれる信徒がいた。イエズス会で約100人がいたという。彼らは迫害が強くなるにしたがって、単なる補助者の立場から司祭や修道士の代役として、洗礼を授け、共同体を維持する活動を担うようになった。

それ以前に、キリシタンは宣教師の指導の下に、ミゼリコルディア(慈悲の組)やコンフラリア(信心会)と呼ばれる自助組織を作り、自らの信仰を強め、死者の埋葬・教会の維持管理・病人や貧者の世話などの慈善事業を行っていた。禁教令施行以降、信仰強化のための組織から、信仰を守るための自衛的資格を持つようになり、「マルチリヨ(殉教)の組」などが組織されるようになった。コンフラリアの会員は、宣教師にかわって教会の中心で活動し、一般の信徒を指導し、信仰の維持と教勢の拡大に努めた。

このように、迫害時代のキリシタンたちは、大迫害に苦しめられていた時でさえ、地下にこもって息をひそめることなく、危機を神の恵みに出会う機会としていた。

日本の教会は、殉教者の声に耳を傾け、迫害時代を生きたキリシタンの姿に学び、神が日本の教会に与えてくださった特別の恵みを現代の教会で生きる必要がある。分断と不寛容に打ち勝つために、信頼あふれる祈りに裏打ちされた一致と連帯が求められている。

そこで、2022年9月10日(23年12月4日)にかけての15カ月を、「愛のあかし・元和の大殉教400年」として記念し、日本の教会にとって共通の遺産である殉教者の霊性に学び、ともに祈り、殉教者の生き方に倣う機運を高め、福音宣教の力にしようとしている。

(文 広報委員会 委員長 川郵裕明)

アベイヤ司教の講演ビデオ、当日のレジメは使徒職養成委員会のHPに掲載予定。読み取りはこちら ▶







# 2023 平和旬間



「希望をもってともに歩む Let's hope and walk together  
～あきらめずに目を覚ましてStay awake, never give up～」

先月号に続き、各小教区から届いた平和旬間の活動報告から抜粋してご紹介します。

報告の詳細は、「平和旬間報告集」にまとめて、11月をめどに各小教区にお送りする予定です。



◆**泉北** 8/6(日)、ミサ後に、「戦争体験者28名の記事」を社会活動委員が朗読し、参加者と分かち合った。3名の元校長先生が「孫の世代にも平和を願う会」を立ち上げ、28人の体験談を編集されたことを知り、この企画をした。戦争体験者が少なくなり、憲法9条を守ろうという機運も薄れた今、平和の大切さ・戦争の怖さを伝えたい。

◆**布施** 7/25(火)、平和キャンペーンと地域交流を兼ねて、近所の「コミュニティ食堂」でDVD「ラゲリより愛をこめて」鑑賞会を行なった。他宗教の方も気軽に誘いやすい一般的な作品を選んだ。教会での鑑賞会は8/15(火)の予定だったが、台風のため8/20(日)に延期した。「共に歩む教会の姿」の思いだったが、教会外の参加者はなかった。

◆**枚岡** 8/6(日)～8/15(火)、教会と家庭で皆で同じ祈りができるように各委員会や地区で10日間の祈りをプリントして配布。台風で聖母被昇天ミサが中止になり、DVD鑑賞も実施できなかったが、心を一つにして祈ったことは良かった。

◆**八尾** 8/6(日)、「20世紀の戦争の語り部」の副題で、前半は、20世紀以降、今日まで世界中で起こった戦争をスライドで鑑賞。後半は、長崎で被爆された方が小冊子にまとめたものを朗読。身近な方の体験談が心に響いた。世の中での出来事を把握しようとするのが大切だと感じた。平和旬間に対する認識が深まってきたと感じた。



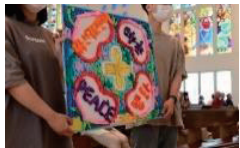
◆**なみはや** 8/13(日)、「戦争が生み出す病～“心が壊れること”とは」のテーマで、①戦争が及ぼす影響 ②「平和を次の世代へ」について、教会関係者だけでなく、依存症の当事者・家族グループからの参加者もあり、有意義な催しになった。平和旬間テーマの通り、未来へ希望が繋がる説明とメッセージを企画した。

◆**住之江** 8/6(日)、ポートピアールとして40日間の苦難を乗り越えて日本にたどり着き、日本に定住されている方の壮絶な体験を聞いた。日本が平和だと気づかずに過ごしていた自分たち、街を焼き尽くす戦争を絶対にしてはならないと再認識させられ



◆**千里ニュータウン** 8/6(日)、平和について教会内で少人数での分かち合いを行なった。特に、戦争体験者から直接話を聴くことをめざした。地球上には戦争以外にも様々な問題があり、「平和とは何か」は難しいが、思いを馳せることで少しでも平和に向かっていくことを願う。

◆**玉造** 8/6(日)、折鶴を作っていただくように7月から聖堂入口に折紙を用意。カードには「平和」について書いていただいた。折鶴はアート作品にして13日(日)のミサで奉納した。当日はDVD「にんげんをかえせ」を視聴し、地区で分かち合いをした。身近な人と平和な関係を築くことが平和につながると感じた。また、平和を作るのも壊すのも「人間の仕業」であると思った。



◆**生野** 8/13(日)、平和のメッセージカードを奉納。アジジの聖フランシスコの「平和の祈り」をし、DVD「沖縄 再び戦場へ」を上映。日本でも戦争の準備が進められているので、平和を諦めず考えて行動し、祈りたい。

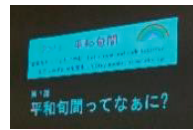
◆**岸和田** 8/13(日)、平和祈願ミサ後、DVD「満州帝国実験国家の夢と幻」を鑑賞。日本が受けた被害をではなく、日本が中国に与えた被害を通して平和を考えた。日本は自国のエゴで他国の土地に国家を創るという過ちを犯した事実を忘れてはいけない。平和とは、自分中心でないことが求められる。



◆**和泉** 8/13(日)、DVD「してはら」鑑賞。8/20(日)、コーラスグループ「ぶどうの木」による合唱、朗読、ポーランドでのウクライナ支援ボランティア報告や、市議員から「ウクライナ避難民の受け入れ」についての話を聞いた。日本の平和憲法がアメリカからの押し付けでないことや軍備をすれば戦争になることが分かった。



◆**泉佐野** 8/13(日)、平和旬間の始まりとテーマを説明。現在の社会問題について、それぞれ3つの異なる意見のどれに近いか自分の考えを確認。コロナで希薄になった人間関係を取り戻すきっかけになった。難民問題や防衛費についても様々な意見を聞く機会になった。



◆**貝塚** 8/6(日)、ミサでビデオを鑑賞。平和を求めて活動する青少年の姿を見て、平和を求めることの大切さを再認識した。ロシアによるウクライナ侵攻で多くの国も間接的に戦争に加担している現実。自分たちも何かできることを始めたいと思った。一人一人が平和を求めて祈ることは大切。



◆**熊取** 8/6(日)、ミサの中で、平和に関する動画を視聴し、平和を求める祈りを捧げた。ロシアによるウクライナ侵攻で多くの国が間接的に戦争に加担している現実と直面している。平和のために活動をしている青少年の姿を見て、平和を希求することの大切さを再認識した。



◆**泉南** 8/13(日)、講話:「アフリカ・モザンビーク 今、そして未来へ」(講話:イポリト・ヴィダ神父)モザンビーク内戦の最中に生まれ、内戦の体験談など辛い記憶も分かち合ってくれたことに感謝。岬教会、紀ノ川教会でも同じテーマで講演が行われた。遠い国の出来事ではなくつながっているという連帯を感じた。

◆**岬** 8/5(土)、「アフリカ・モザンビーク 今、そして未来へ」(講話:イポリト・ヴィダ神父)モザンビーク内戦を体験されたイポリト神父は、その体験を含めて母国モザンビークの歴史を話された。無関心であることは罪であり、諦めることなく平和の作り手であることが大切であると思った。



◆**紀の川** 8/6(日)、イポリト神父による講演。テーマは「アフリカ・モザンビーク 今、そして未来へ」。遠い存在の国だったが出身国の神父から過去から現在までの人類の罪過や良き未来を拓きたいという話を聞き、「キリストの平和」から遠のいていくような現状を学習できた。平和を築いていく過程を考えさせられた。



◆**和歌山紀北** 8/27(日)、屋形町聖堂で戦争体験談、和歌山大空襲のパネル展示とお話、特攻作戦などのパネル展示、紀南の戦跡の展示、子ども達の描いた平和の絵の展示を、戦争について伝えたいという思いで企画。開催日が台風のため延期になったが、展示や証言は多くの方に戦争の悲惨さを伝えた。



◆**紀伊田辺** 「平和旬間だから」という発想ではなく、地元の市民グループが参加する5/5の龍神教会での「龍神殿原 B29 戦没兵士慰霊祭」に参加して行事に協力し、常時情報交換している。紀南ブロック行事として、5/5に龍神教会での平和祈願ミサに参加。6月から沖縄戦のパネル、広島、長崎等の資料提供。8/6(日)はDVD「おきなわ」を視聴。

## 「平和旬間」を振り返って

社会活動センターシナピス センター長・松浦 謙



「希望をもってともに歩む」という今年のテーマは、平和の実現が「幻」のように思える中、希望を失うまい、という思いから生まれました。今回、多くの小教区でなされた真剣な祈りと、平和について考える様々な取り組みは、参加者への励ましや力となりました。

全体を概観すると、例年通り、戦争の歴史を振り返り、これからのわたしたちの将来を考える内容が多くあったように思います。アジア・太平洋戦争のみでなく、アフリカの内戦、ベトナム戦争、そして現在渦中にあるウクライナ戦争なども取り上げ、平和な世界の実現を願って祈りがささげられました。また平和の原点として、一人ひとりの人間のいのちを大切にすることに注目した企画もありました。貧困にあえぐ人や難民への支援、心の病へのケア、地球環境を守ること等です。また宗派や宗教を超えた集いを持ちたり、地域の市民グループと共に平和を考える取り組みもありました。

「ともに歩む」とは今年10月のシダスのテーマでした。いつもわたしたちとともにいてくださる主キリストを信頼し、平和な社会の実現をめざして、希望をもって歩んでいきましょう。

「平和は可能である」ということを信じて!





# 聞かせてください 神さまと出会った時のこと 〜エマオへの道で〜

## 第6回 アントニウス・ハルノコ神父 (淳心会)

インドネシア出身。1998年、28歳で来日。堺ブ

「失うとき」―いつもお願いされるまま、働いた。しかし、東日本大震災のときだけは、「私を送ってくださいますか」といって働きたかった。大変なところで働きたかった。と自分で手を上げた。当時管区長だったエド

1993年、司祭叙階。2007年カルメル会より東京教区へ移籍。08年〜12年立川教会協力。12年〜東京教区本部協力司祭。

修道会創立期(1950年)に入会し、創立者当時の大阪教区長 田口芳五郎枢機卿の精神に共鳴し、第2次世界大戦のあと荒廃した日本社会に福音を伝えるために奉仕した。「主の教会の礎になるように」との精神で西宮大阪司教館、司祭館、ガラシア病院にも長年勤務してきた。晩年は修練院で、修練者に、



バウロ星野 正道神父(東京教区)は、9月20日、世田谷区弦巻で虚血性心不全のため帰天、73歳。東京都出身。

補佐・教授を務めた。Sr. マリア・アンナ立石シズエ(大阪聖ヨゼフ宣教師修道女会)は、2023年10月5日、胆嚢癌による閉塞性黄疸により帰天。97歳。長崎県出身。奉獻生活70年。

「失うとき」―いつもお願いされるまま、働いた。しかし、東日本大震災のときだけは、「私を送ってくださいますか」といって働きたかった。大変なところで働きたかった。と自分で手を上げた。当時管区長だったエドガル神父にお願した。2011年11月11日、大船渡につくと、真つ暗で、寒かった。自分は若く、何でもできると思い込んでいた私に、イエスが、陸前高田、大船渡を見せてくれた。一人では何もできなかった。失うことが多すぎて、泣いてばかりいた時もあった。ここでの4年間、人との関わりの中で神に出会った。毎日ひたすら片づけ、それはとても深い体験だった。「嘆くとき」―1年前、兄の奥さんが亡くなった。

「組み立てるとき」―自分が許すことよりも、たくさん許されたから、今まで歩いてこれた。今、自分も管区長になり、アジア中の問題を片付けなければならぬ。困難な問題に対して

「8月のお話より抜粋。サクラファミリアで偶数月に開催中」

翌朝は天気が回復し、時間も通り国際ミサが始まりました。ムンクの若者たちの存在が、ベトナム人グループが舞台に立ち、何十人ものベトナム人が四方八方から舞台前に集まり、舞台演奏に合せて

# 「カテキズムの学び」 第45回 エウカリスチアの秘跡 (3の1)

\*クラスは右のQRコードから

教会の秘跡は七つありますが、時系列的に一番大切なのは洗礼の秘跡です。受洗していなければ他の六つの秘跡を授かることができないからです。一方、最も価値ある秘跡と言う点からは、エウカリスチアの秘跡です。

エウカリスチア(感謝の祭儀)はキリスト教生活全体の泉であり頂点です。諸秘跡も、また同様にすべての教会的役割も使徒職の仕事も、すべては聖体祭儀と結ばれ、これに秩序づけられています。事実、もっとも尊い聖体祭儀の中に……キリストご自身が含まれています。(1324番)

さて、カテキズムの邦訳は、いまだに聞きなれない「エウカリスチア」という用語を用いています。「聖体の秘跡」だと、聖変化されたパンとぶどう酒という「物」だけを指すのに対して、エウカリスチアの秘跡にはミサもまた含まれるからです。

カテキズムは、用語の説明に続いて、イスラエルの民の過越祭や荒野で食べたマナ、イエスの話されたいのちのパンの話やパンを増やす秘跡、最後の晩餐での制定まで、旧約時代から新約時代への連続性に触れています。

……ご自分の死と復活の記念としてエウカリスチアを定め、使徒を新しい契約の祭司とし、これを再臨の日まで行うよう命じられました。教会は当初から、キリストの命令に忠実に従いました。(1341-1342番)

自分がミサにあずかっているということは、旧約と新約の時代に現実に起こった出来事に参加しているのだという意識を持つことは、とても大切な点です。

このような歴史性を持つエウカリスチアの典礼(感謝の祭儀)は、最初から「二つの部分による一つの流れ」として行われてきました。

……二つの部分に分けて展開されますが、根本的には一つの流れです。――信者が集まって行われることばの典礼、すなわち、朗読、説教、共同祈願。――感謝の典礼、すなわち、パンとぶどう酒の奉納、聖別のための感謝の祈り、聖体拝領。

この二つの部分についての解説がこの後続きます。(文 酒井俊弘補佐司教)

# 訃報

バウロ星野 正道神父(東京教区)は、9月20日、世田谷区弦巻で虚血性心不全のため帰天、73歳。東京都出身。

Sr. マリア・アンナ立石シズエ(大阪聖ヨゼフ宣教師修道女会)は、2023年10月5日、胆嚢癌による閉塞性黄疸により帰天。97歳。長崎県出身。奉獻生活70年。

補佐・教授を務めた。

# 「生かす」―難民移住者

## インターナショナルデーこぼれ話

10月15日、International Dayの集いが開催されました。コロナ以前の規模に戻したとあって、カテドラルでのミサは立ち見で溢れ、午後の交流会も大賑わいでした。詳細は時報の来月号をお楽しみにされるとして、私は裏方のこぼれ話を。

実は本番の前日はあいにくの雨で、会場準備応援係の皆さんは濡れながら28張ものテントを設営する羽目となりました。「重いテントは日本人の高齢者がやるんかい」の声もあり、確かに私が呼びかけた若者たちの集まりは今一つ

30年間を振り返ると、祭りの参加者の層もずいぶん変化してきました。90年代は会場の殆どがフィリピンと南米出身者で埋め尽くされていましたが、21世紀に入ると祭りに集う人びとの顔ぶれは多様になり、年によつては中国人留学生や、シリアからの避難民が舞台に立つこともありました。



弾けて踊るベトナムの若者たち

「国籍を越えた神の国を指すテント設営」は来年の重要課題となりました。

今年、圧巻だったのはベトナムの若者たちの存在

「We're the world」を大合唱し、誰もが「また来年」と手を振ってそれぞれの日常へ戻ってゆきました。無事故で行事を終え安堵すると急に私の腰が痛くなりました。さあ、世代交代。来年の実行委員会は若い外国籍信徒たちで構成して新しい教区行事を盛り上げていくことでしょう。(文 シナピス事務局 ビスカルド篤子)

【お詫びと訂正】  
本紙10月号に記載誤りがありました。  
1面 WYD Lisbon2023 ワールドユースデー (誤) 玉造教会 田中愛弥 田中愛弥  
5面 青年と子どもの錬成会を終えて (誤) 青少年委員会→ (正) 青少年司牧委員会  
お詫びし訂正します。(広報委員会)

### カトリック墓地 納骨堂・納骨所 使用者募集

大阪教区の信者の方のみがお申込みいただけます。詳細は資料をお送りさせていただきます。ご返信は、インターネットでもご返信いただけます。

資料請求やお問い合わせは 教区本部事務局 総務課 管理部 06-6941-9705



# 来し見よ



ヨハネ 1・46

※詳細は各主催者へ直接お問い合わせください。

## 教区委員会主催

### 信仰養成連続講座◆カテキズムの第2編「キリスト教の神秘を祝う」

日時 11/23(木・祝) 18:30~20:00

講師 酒井俊弘補佐司教  
場所 サクラ ファミリア /YouTube配信あり

主催 使徒職養成委員会  
問 ☎06-6941-9700

### 2023年度 第4回諸宗教活動◆仏教との対話：講話

テーマ 「病者に寄り添う仏教者」  
日時 11/10(金)18:30~20:00  
講師 大河内大博 住職  
場所 カトリック大阪高松大司教区 本部事務局

### 2023年度 第5回諸宗教活動◆第4回 諸宗教シンポジウム

テーマ 「幸せへの道を示す宗教」キリスト教、神道、仏教の三つの宗教の視点から考察し、対話します。  
日時 12/9(土)17:15~20:00  
場所 カトリック大阪高松大司教区 本部事務局

主催 諸宗教対話委員会  
問 ☎06-6941-9700  
✉ird-ecm@osaka.catholic.jp

## サクラ ファミリア主催

### 松本信愛神父講演会◆命の終わり近くの問題を考える

日時 11/18(土)14:00~16:00

申込み 不要

### 聞かせてください 神さまと出会った時のこと~エマオへの道で~◆大阪教区で働く司祭・修道者ご自身の体験をきく

日時 12/5(火)18:00~19:30 (夜の部)・12/6(水)10:30~12:00(昼の部)  
お話 高橋 聡神父(明石教会)

### コレーン神父と学ぶ聖書◆「使徒パウロのフィリピの教会への手紙」

日時 第2(月)13:30~15:00 (9~12月開講)  
参加費 ¥500  
申込み 必要

### 和田幹男神父◆聖書研究講座『主のしもべイエス』

日時 第2(水)10:00~12:00

### 和田幹男神父◆新約聖書ギリシア語(初級)

日時 11/13・11/27(月)17:00~18:30

### 松浦信行神父◆「新生の明日を求めて」読書会

日時 毎週(月)(第2は休み) 14:00~15:30

### 松浦信行神父◆聖書通読会

日時 毎週(木)10:00~11:30

### 松浦信行神父◆「YOUCAT(青年向けカテキズム)」勉強会

日時 毎週(金)19:00~20:00

### 祈りのよる◆灯りをかこみ、ともに祈る静かな時間を

日時 毎月17日 19:00~19:30

問 サクラ ファミリア  
☎06-6225-8871  
✉f.sacra@osaka.catholic.jp

## 結婚準備講座

夙川教会  
日時 11/5(日)~11/26(日) 4回 14:00~15:30  
参加費 ¥5,000(2名)  
問 ☎0798-22-1649

六甲教会  
日時 2024年2/4~2/25(日) 4回 14:00~16:00  
参加費 ¥5,000(2名)  
問 ☎078-851-2846  
✉renraku@rokko-catholic.jp  
※事前要問合せ(年2回)

## 黙想会

宝塚黙想の家  
◆日帰り黙想会  
日時 11/16(木)・11/24(金)  
指導 染野治雄神父(11/16) 山内十束神父(11/24)  
参加費 ¥3,500

◆聖地エルサレムを学ぶ  
日時 第2(木)10:00~12:00  
指導 笹田六合豊修道士  
参加費 ¥1,000

◆カトリック教会のカテキズム  
日時 第1・3(水)10:00~12:00  
指導 染野治雄神父  
参加費 ¥1,000

◆祈りを深めるための聖書の基本  
日時 11/15・22(水)10:00~12:00  
指導 山内十束神父  
参加費 ¥1,000

問 宝塚黙想の家 ☎0797-84-3111

女子御受難修道会◆友の会  
日時 12/13(水)10:00~16:00  
指導 志村武神父(カルメル会)

問 女子御受難会  
☎0797-84-7863  
☎0797-84-7864

聖ドミニコ宣教修道会  
◆召命黙想会  
日時 12/2(土)15:00~12/3(日)14:00  
場所 聖ドミニコ宣教修道会 ロザリオの家  
対象 独身女性信徒  
参加費 ¥2,000  
問 シスター今村  
☎090-5006-4676  
✉imamisa8@hotmail.com

## 講座・研修会

講座 本田哲郎神父◆小さくされた人々のための福音  
日時 第3(金)10:00  
場所 神戸学生青年センター  
参加費 ¥1,000  
主催 神戸国際支縁機構  
問 岩村 ☎070-5045-7127

## 集い

セレスチナ合唱団◆Adeste Fidelesミサ聖祭でミサ曲を歌う  
日時 12/10(日)14:00  
場所 大阪明星学園 聖堂  
参加費 無料  
主催 セレスチナ合唱団 (協力 大阪明星学園)  
問 内野 ☎090-1155-7535

大阪JOC◆働き方や生き方について現状から共に考える15~35歳までの若者の集い  
日時 第4(土)14:00~16:00  
場所 大阪YCWセンター (またはZoom)  
問 レネ神父・水元  
☎072-232-8063  
✉osakaycw@gmail.com  
HPhttp://www.ycw.jp/

要約筆記グループ「エッフアタ！」練習会◆教区ミサに要約筆記(文字表示)をつけるボランティア  
対象 要約筆記に関心のある方。フリーソフトcaptiOnlineを使いパソコンまたはスマホで練習します。

日時 毎月第2(水)10:00~12:00  
場所 教区本部事務局1階会議室  
主催 要約筆記グループ “エッフアタ!”

精神・発達症(障害)者自助グループ◆オリーブの集い  
守秘義務と分かち合い  
いつ来てもウェルカム  
当日キャンセルOK  
日時 毎月第3(日)14:00~16:00  
場所 姫里集会所  
参加費 無料(12月のクリスマス会だけ実費)  
申込 吉川まで  
問 ☎078-583-2525  
✉yassan.yoshikawa@nifty.com

力陣連大阪フレンドリー◆点字部の勉強会  
対象 パソコン点訳に関心のあるかた、視覚障がい者の情報共有に関心のある方  
日時 奇数月・第2(火)13:30~15:00 偶数月・第2(火)14:00~16:00  
場所 姫里集会所(奇数月) 北須磨教会(偶数月)  
申込 笠松まで  
問 ☎090-5661-4324 ☎072-722-0271  
✉kasamatsu-yukisan@iris.eonet.ne.jp

手話に興味をお持ちの方へ◆聞こえない人も聞こえる人もボランティア会の見学にいらしてください  
内容 聖書の学び・教区活動の手話通訳者派遣 ※手話講習会ではありません  
日時 第1・3・5(水)10:00~14:00  
場所 姫里集会所  
主催 大阪教区聴覚障がい者ボランティア会  
問 障がい者委員会  
dis@osaka.catholic.jp

マザー・テレサ共労者の集い◆大阪梅田教会  
日時 第1(土)14:00  
問 高塚 ☎06-6921-0693  
◆加古川教会  
日時 第4(水)13:00~14:30  
問 佐藤 ☎079-435-1157

行事等日程		11月	11日 土	大阪高松大司教区 設立感謝ミサ
1	水	諸聖人	14日 火	日韓司教交流会 (~16日迄)
2	木	死者の日 [常任司教委員会]	19日 日	聖書週間(~26日迄) 貧しい人のための世界祈願日
3	金	11時 教区納骨者および死者祈念ミサ (カテドラル)	26日 日	王であるキリスト 世界青年の日
8	水	10時 責任役員会	29日 水	10時半 教区月修
9	木	ラテラン教会の献堂 聖レオ1世教皇博士 大司教霊名	12月	
10	金	14時 第1回司祭評議会 16時 顧問会	3日 日	宣教地召命促進の日(献金)
			6日 水	10時 責任役員会 [常任司教委員会]
			7日 木	

2023年度 秋人事異動(第二次) [10月1日付] ※( )内は現任地。  
 ▼ティアゴダコンセイサオ エステヴァ  
 ▼アオトマス神父(玉造教会居住・日本語研修)は香里教会居住・日本語研修  
 経理課業務担当者増員のお知らせ  
 前田 秀子  
 馬話 稔子  
 右 知子  
 宮本 朋子  
 山口 郁子

人は二度死ぬと言われます。一度目は命の尽きた時、二度目はすべての人の記憶から消えた時です。11月は死者の月、私たちは故人のために祈ります。祈りについて小話を。敬虔なカトリック信徒が住んでいる村に、バーができました。飲む、打つ、買う、すべての悪いことがこのバーで起きました。村人はバーがなくなるよう熱心に祈りました。六か月後、バーは焼失しました。六か月の主人は村人を相手に訴訟を起こしました。村人が主人に「私たちが何をしたらいいのですか?」と問うと、主人は「この村で祈りの力を信じているのは、私だけのようだ」と言ったそう。 (テイモシイ・ラドクリフ「なぜ教会に行くの」祈りの力、信じてますか? (広報委員会 川柳裕明))

編集後記  
 人は二度死ぬと言われます。一度目は命の尽きた時、二度目はすべての人の記憶から消えた時です。11月は死者の月、私たちは故人のために祈ります。祈りについて小話を。敬虔なカトリック信徒が住んでいる村に、バーができました。飲む、打つ、買う、すべての悪いことがこのバーで起きました。村人はバーがなくなるよう熱心に祈りました。六か月後、バーは焼失しました。六か月の主人は村人を相手に訴訟を起こしました。村人が主人に「私たちが何をしたらいいのですか?」と問うと、主人は「この村で祈りの力を信じているのは、私だけのようだ」と言ったそう。 (テイモシイ・ラドクリフ「なぜ教会に行くの」祈りの力、信じてますか? (広報委員会 川柳裕明))

### 11月司教予定

(右記「行事等日程」以外)

- 11/4 聖フランシスコ病院修道会日本宣教開始75周年記念ミサ(+M)
- 11/12 箕面教会 堅信式(+S)・徳島地区合同ミサ(+M)
- 11/17 小林聖心100周年(+M)(+S)
- 11/19 大阪田辺・平野教会 堅信式(+S)
- 11/23 淳心会75周年(+M)(+S)
- 11/26 玉造B 堅信式(+M)

+M=前田万葉大司教 +S=酒井俊弘補佐司教

### カトリック 大阪高松大司教区 ハラスメント相談窓口

※委員会はハラスメント全般を視野に入れることになりました。そのため、名称変更します。  
 電話番号:06-6941-9718  
 相談窓口受付時間  
 月・火・金曜日(祝日を除く)  
 午前10時~午後4時  
 あなたの悩みを親身になって受け止めます。秘密は必ず守られます。

### カトリック 大阪高松大司教区 の新サイトを公開しました

ここからQRコードを読み込んでください  
 https://ostk.catholic.jp